

常任委員会の行政視察報告

先進自治体の事例を学ぶため、視察を行いました。
その概要をお知らせいたします。

教育民生常任委員会

視察先：西津軽郡鰺ヶ沢町



担当者からの説明



外構の様子



挨拶をする野呂司委員長

6月17日、所管事務調査として現在工事中の旧木造町公民館講堂移築復元工事現場の進捗状況調査し、その後、**鰺ヶ沢町母子保健センター**を視察した。

現在、松の館に移築工事中の講堂は、工事用の屋根で覆い^{まさいたふき}杭板葺の作業中であったが、まだ内装工事等を終えておらず、それに着手されると創建当時の重厚さが、よみがえるのではないかとと思われる。工事の進捗率65%で令和2年の完成を目指しており、文化施設として大いに活用されることを期待する。

鰺ヶ沢町母子保健センターは、国が2020年度末までに全国展開を目指している子育て世代包括支援センターの先進事例として知られ、妊娠期から子育て期までノンストップの切れ目のない支援を行っています。助産師が常駐し、専門的な手厚いケアや相談を行っており、ママさんたちの心強い相談の場となっている。おむつの支給や町が委託している母子支援ヘルパーによる子供の一時預かりや産前産後の家事支援、また、里帰り出産にも対応しているなどきめ細かい子育て支援をしていると感心した。

県内の市で事業計画がないのはつがる市のみのため、早急に整備していただきたい。

経済建設常任委員会

視察先：上北郡おいらせ町

7月12日、**アグリの里おいらせ**を視察。同施設は冬でもいちご狩りのできる通年型・体験型の観光農園施設で、平成18年本格稼働した。隣接する施設の温泉を活用し、熱帯果樹や野菜などをハウス栽培して加工、販売しているほか、農園レストランで提供している。足湯、米粉パンや地元特産品を販売する物産館なども併設。また、障害者の就労支援にも積極的に取り組み、車いすでも収穫体験ができるような設計をするなど、高齢者や障害者も利用しやすい施設となっている。これらのことが評価されて、農林水産大臣賞などを受賞している。

当初は栽培に難しいと言われた熱帯果樹であったが、現在では無農薬栽培と品質の良さが評判を呼び、中でもバナナの売れ行きが好調とのことであった。通年型の観光農園施設は収益の向上のほか、雇用促進、交流人口の増加などが期待されるため、当市においても参考にしたい事例であった。



料理実習などもできる
多目的スペース



バナナは一年で収穫でき、
葉っぱも売れている

総務常任委員会 視察先：西津軽郡鰺ヶ沢町 7月10日

地域コミュニティバス「あじバス」について

これまで広域路線バスとして運行していた南広森線、鶴田線、下繁田線、再賀線が、平成30年9月30日の運行を最後に廃止となった。市では廃止された4路線を通学、通院等のため利用していた方々の交通手段確保のため、平成30年10月より地域内交通として、廃止された路線の同じ経路を通して別路線に接続するバス運行をしている。また、当該運行を実証運行として、本年10月から新たな交通手段の導入に向けて準備を進めているため、地域コミュニティバスの運行を先駆けて実施している鰺ヶ沢町の状況を視察した。

【あじバス運行に至った経緯】

①逼迫した町の財政

- ・路線バス維持に係る負担金の増加
(補助金額 平成24年 約2,300万円 → 平成28年 約3,000万円)
- ・バス料金の制度改正に伴うスクールバス経費の高騰
(平成28年 約9,900万円 → 平成29年 約1億7,000万円)

②住民の声

- ・路線バスと朝夕同じ時間帯で同じ経路をスクールバスが運行するのは無駄ではないか。
- ・路線外地域（交通空白地）の住民は、日々の移動手段に困っている。この地域にもスクールバスは運行されているので乗車できないものか。

上記を踏まえ、地域交通会議を設置。アンケート調査、乗降調査、住民説明会、各校PTA説明会を開催しながら「町地域公共交通網形成計画」を策定し、平成29年4月より「あじバス」運行開始

【あじバスの概要】

定義・・・・・・・・・・路線バスとスクールバスを統一した乗り合いバス
 路線・車両数・・・・13路線、中型車両13台+10人乗小型ワゴン車両3台
 対象者・・・・・・・・町民及び来町された方だれでも乗車可能
 運賃・・・・・・・・・・1乗車につき100円（中学生以下は無料）
 　　　　　　　　　　　7月16日より免許返納者は生涯無料
 バス停・・・・・・・・118箇所
 時刻表・・・・・・・・児童生徒の登下校時間を軸に、広域路線バス時刻と重複しないように設定
 　　　　　　　　　　　学校行事等で変更が生じることから、毎月変更した時刻表を每户配布

【効果】

- ・町の経費削減
- ・町民の負担減
- ・広域路線バスとのすみ分けにより、町民の移動手段が拡大
平成29年 22,000人→ 平成30年 27,000人（参考：以前の路線バス利用者 年19,000人）
- ・児童生徒が休日無料で乗車できるため行動範囲が広がり、親の送迎負担が軽減された

【課題】

- ・JRとの接続がない
- ・中心市街地の移動手段が不十分
- ・時刻表がづらい
- ・車両の老朽化
- ・運転手（労働力）不足が予想される

【今後の取り組み】

- ・駅構内に簡易窓口設置
- ・町内4箇所に意見箱設置
- ・中心市街地を巡回するバス運行を7月中旬より実証運行



鰺ヶ沢町役場にて



説明する担当職員

以上、今後も広く意見を聞きながら運行していくとのこと。
 本市と比較してみると、山間部から市街地を往復する経路や集落の位置、財政状況など異なるが、実施までの過程の説明を受け、大変参考になった。
 今回の視察内容を検証しながら、議会の立場で意見を述べていきたい。